

中国語訳聖書『神天聖書』の翻訳語彙の 幾つかの特徴について

About some characteristics of the translation vocabulary
from the Chinese bible translation *Shentianshengshu*

塩山正純

SHIOYAMA Masazumi

愛知大学国際コミュニケーション学部

Faculty of International Communication, Aichi University

E-mail: shioyama@vega.aichi-u.ac.jp

概要

马礼逊（1782-1834）是新教来华宣教者的先驱。他来华之后陆续做了三个方面的工作，即汉译圣经，英华、华英字典的编撰，汉语的研究。马礼逊的汉译圣经第一项工程是《神天圣书》。在汉译圣经文本的若干分类中，马礼逊的汉译本《神天圣书》被纳入在所谓“文理”类别里。但是，马礼逊本人在翻译圣经时曾指出：“圣经的翻译应该讲究忠实、明快和纯正，和洗练的古代汉语相比较，选择普通的生活言语更为通俗易懂”，因而他认为类似于小说《三国演义》的文体是最为适合的。

本文以马礼逊的《神天圣书》汉译本的四个福音书为核心资料，通过比较的方法，将其文中使用频率较高的白话虚词“個／箇”、“的”、“了”的例句和《圣经直解》、《四史攸编》以及由马礼逊儿子修订和裨治文・克陛存翻译的后代圣经汉译版本的例句加以对照考察，初步探讨了马礼逊《神天圣书》汉译本的文体和词汇的特征。

通过探讨，本文认为——《圣经直解》和《四史攸编》可以说基本上是文言文，因为其描写与叙述的言语中几乎没出现过白话词语。而马礼逊的《神天圣书》，虽然整体上给人的印象也是文言文，但是其文本中却包含了数百个白话文句子。这些白话文句子虽然不像《三国演义》那样用来塑造人物性格和言语风格的，但是句子中大多都有“個”、“的”、“了”等虚词。其中，“個”专用于指人、金钱和面包的量；“的”作为“别的”、“有的”的词素来表示英文原文“another”“some”“the other”的意思；“了”则是对具有消极性印象的动词表示“完了”意义的。至于《神天圣书》的后代汉译本，即由马礼逊儿子修订和裨治文・克陛存翻译的汉译版本，可以说几乎都把马礼逊版本中的白话要素都砍掉了，因而文言的表现更强了，马礼逊版本中“雅俗共赏”的特征在其文本中也可以说消失了。

R. モリソン (1782–1834) は、プロテスタントの宣教師として最初に中国に渡来し、聖書の中漢訳、英華・華英字典の編集、中国語学研究という3つの大きな仕事を成し遂げた。その1つ聖書の漢訳が『神天聖書』(1823)である。漢訳聖書の文体の分類で、『神天聖書』は所謂「文理 (Wenli, High Wenli)」に入れられる。しかし、モリソンは翻訳にあたり、「忠実で、明快で、単純であることを心がけ、古典のことばよりも、ふつうのことばを選び、洗練より分かりやすさを取った」と言い、また『三国志演義』のような文体がふさわしい、とも考えていた。本稿では、『神天聖書』の4福音書を中心に、『聖經直解』『四史攸編』、それから『神天聖書』の後継訳である2つの聖書、つまりモリソンの息子による改訳(モリソン改訳)、ブリッジマン・カルバートソン訳(BC訳)との比較対照を通して、『神天聖書』の文体や特徴のある語彙、とくに4福音書の白話の虚詞で多く用いられた“個/箇”、“的”、“了”の用例、その他の白話語彙、吏文の語彙、異文化の翻訳その他について考察したい。なお、本稿ではモリソンの『神天聖書』4福音書については1813年刊『新遺詔書』に収録されたものを資料として使用した。

1 白話語彙をつかった表現

17世紀後半にヴァロが『官話文典』の中で中国語には高雅なスタイル、中間的なスタイル、粗野なスタイルの3つのモードがあり、それぞれ相応しい場面に応じて使い分けられることを指摘しているが¹⁾、モリソンも中国語の書面語は3つに分類される、と考えた。

モリソンは、文体の1つは文言、もう1つは白話(口語体)、そして両者の中間的存在の文言と白話の混濁体があり、これは『三国志演義』に代表されるような文体である、と考えた。そして、この『三国志演義』のような文体が聖書の翻訳に相応しい、とも考えた。この文体は文言がもつ「雅」と白話がもつ「達」を兼ね備えており、一方で聖書に必要な品格を保ちつつ、一方で聖書原文を中国の幅広い層の大衆が理解できる文章に翻訳できると考えたのである。そもそも、『三国志演義』はその序文によれば、読者の対象を一般庶民から士君子までに想定しており、自ずとその文体は両者に受け入れられるものと成って来る。全体的には文言の特徴である「雅」を保ちつつ、場面によっては白話の要素を活用してストーリーを生き活きと描いている。その文体は、会話では武将の台詞は文語で、庶民や庶民出身のものは口語調であり、区別が相当にはっきりしているようである²⁾。

では、モリソンによって翻訳された聖書本文に、モリソンが理想を実践した形跡は見られたかという、結論から言えば、聖書ではそれは無かったと言える。『神天聖書』4福音書は348語の白話語彙を使用しているが、用例の大部分は“個/箇”、“的”、“了”であり、上述のようなモリソンの理想とした用法からは遠く、会話の場面で何らかの効果を狙って意図的に白話の語彙が使用されることはなかった。しかし、このような語彙が多用された

ことには、やはり何らかの効果があつたとも思われるのである。

2 白話の虚詞の用例数

まず、『神天聖書』の先行聖書である『聖經直解』、『四史攸編』における白話語彙の用例数については以下のとおりである。

1) 『聖經直解』では、白話の語彙は、偶然に紛れ込んだと言ってしまって良いくらい少なく、全編を通して文言の文体であるといえる。

	便	得	個,箇	了	裏,裡	這	底,的	着	只	兒	子	合計
全体	4	0	0-0	1	0	0	0-1	0	0	0	0	6

2) 『四史攸編』も、『聖經直解』と同じく、白話語彙は偶然に紛れ込んだと言ってしまって良いくらい少なく、意図的な白話語彙の使用はないといえる。

	便	得	個,箇	了	裏,裡	這	底,的	着	只	兒	子	合計
全体	2	0	0-0	2	3	0	0-1	1	0	0	0	9

『神天聖書』は4福音書が全体的に文言を土台にしているということは明らかであった。一方で白話の虚詞の用例数についても、下表に示す通り、『四史攸編』に比べてかなり増加していることが分かる³⁾。

	便	得	個,箇	了	裏,裡	這	底,的	着	只	兒	子	合計
Matthew	0	6	57-0	10	3	0	48	0	0	0	8	132
Mark	0	10	31-0	8	5	0	22	3	0	0	6	85
Luke	15	3	1-11	8	2	0	15	2	2	0	9	68
John	1	7	10-0	10	5	(1)	25	3	0	0	2	63
全体	16	26	99-11	36	15	(1)	110	8	2	0	25	348

また、以下のように「使徒行傳」は用例数が極めて少ない。

Act	1	3	0	0	2	1	3	3	0	0	4	17
-----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----

「ルカの福音書」は“便”が15例あり、量詞には“箇”が使われ、4福音書中、文字数が最多にも拘らず白話語彙がかなり少なく、他3書と著しく異なる。また、「使徒行傳」は底本『四史攸編』の全訳をほぼ踏襲し、『神天聖書』の翻訳の段階で白話語彙が混入する可能性が極めて低かったことが、上表の用例数の少なさに現れている。

上表の結果から、『神天聖書』4福音書では、“個/箇”、“的”、“了”が多用されていることが分かる。以下、この3語の用例の特徴について順に見て行くことにする。

3 白話の虚詞の用例

(1) “個，箇”

“個”は『神天聖書』に用例のある量詞のなかで最も多く110例あり，どんな場面で何に對してつかっているのかを調べてみると，ヒトからモノまで幅広く使われたが，下表に挙げた例をはじめとして，ヒトを数える際に使われたものが61例で最多であった。

書章節	日本語の意味	神天聖書	モリソン改訳	BC訳
M9-27	盲人	兩個瞎人	二瞽	二瞽者
M22-28	兄弟	其七個弟兄中	七人之中	七人中
M8-28	悪靈につかれた人	兩個懷鬼風者	二人犯邪鬼	患鬼之二人
M21-28	子	兩個子／第一個	二子／其長	二子／其長
M25-1	娘	十個貞女	童女十人	童女十人
M27-38	強盜	兩個賊	二賊	二盜
M26-60	偽証者	兩個偽証見	二妄證者	二妄證者

お金（貨幣）を数えるのが19例，パンを数えるのが16例で，上位3語で合計96例を占めた。

M15-36	パン	七個餅	七餅	七餅
--------	----	-----	----	----

この他少数の例では時間や日数，霊などを数えるもの若干あったが，『神天聖書』では，主にヒト，お金（通貨タラントに對して），パンを数えるのに量詞を積極的に用いたことが分かる。上表のようにモリソン改訳，BC訳では，すべて量詞を省いた文言的な文体に改められている。

ヒトは“個”で数えられたが，「使徒」に對しても量詞が使われ，“十二位使徒（M10-2）”，“十二位之一（M26-47）”，“一位門徒（M23-15）”のように敬意が含まれる“位”が用いられた。“位”の意味するところを把握して，一般のヒトと區別して「使徒」だけは一段高い扱いをしていたことが分かる。しかしモリソン改訳，BC訳では“位”も“個”とともに全て削除されて，量詞のない文言的な表現に改められている。

また，『神天聖書』では複数の人物が1つの文に並列されて登場する場合があるが，このような場面では，まず次の例のように量詞を使わないで表現するタイプがある。

M24-41 兩婦同在磨米一被捉一脱逃也

L17-35 將有二婦同磨麵一被搶一見留

さらに以下の用例のように，量詞“個”が同一句の中でくり返し用いられるスタイルも見られる。前者ととくに場面の目立った使い分けはみられないが，口語的な印象がよくなっている。なお，くり返される量詞の用例はすべて“個”の用例である。

M21-35 惟農夫將厥數僕打一個殺一個以石擊一個

- M22-5 但伊等輕忽而往去也一個去理耕田一個去理賣買
 Ma10-37 伊等謂之曰賜我們坐一個在爾右一個在爾左于爾榮
 Ma15-27 又同之伊等釘十字架兩個盜賊一個在右手一個在左手
 J20-12 見兩個神使白衣坐一個在首一個在腳 # 耶穌之尸所先放在處

後継聖書では、例えば「M21-35」ではモリソン改訳“撻一殺一以石擊一”，BC訳“扑一殺一以石擊一”というように、全ての用例で量詞“個”が削られ、量詞をもたない文言的な表現に改められるなど、量詞の使用に関していえば、定着しなかったといえる。

(2) “的”

“的”の用例、110例のうち、“别的”が27例で最も多かった。“有的”(19例)、“各樣的”(5例)とあわせて51例を占めた。

- M8-21 其别的門徒謂之曰主許我先去葬父
 M25-11 後其别的貞女來呼云主主開與我

この2つの用例の原典の英語はつぎのとおりで、“Another of”，“the other”の意味が訳されていることが分かる。

- M8-21 Another of his disciples said to him, “Lord, first let me go and bury my father.”
 M25-11 Later the other bridesmaids came also, saying, ‘Lord, lord, open to us.’

とくに“有的”は1つの文のなかで並列して用いられるものが多かった。

- M13-8 惟有些落于好地而生果 # 有的一百倍有的六十倍有的三十倍
 M16-14 伊等曰有的云汝為若翰付洗者有的云以來者有的云耶利米亞或先知之一

この2つの用例の原典英語はつぎのとおりで、“some”，“the other”の意味が訳されていることが分かる。

- M13-8 Other seeds fell on good soil and brought forth grain, some a hundredfold, some sixty, some thirty.
 M16-14 And they said, “Some say John the Baptist, but others Elijah, and still others Jeremiah or one of the prophets.”

また、1章節で4つの“的”を使う用例は、モリソン改訳、BC訳では次のように改められている。

- J5-3 彼有放在大眾害病的瞎的跛的衰的俟 # 候有水之動
 J5-3 In these lay many invalids — blind, lame, and paralyzed.

【改訳】 廊中偃臥大眾病人等即瞽者跛者衰者待水之動也

【BC】 其中臥病者瞽者跛者衰者甚眾待水動也

(3) “了”

助詞の“了”の用例の36例のうち、多数の26例は以下の用例のようにマイナスイメージの場合に使われている。その内訳は、“死了”10例で、“壞了”，“廢了”，“犯了”が各2例，その他はいずれも1例ずつであった。用例は以下のとおり1例ずつ挙げておく。

- M2-15 又居彼待希羅得死了之時致驗主以先知所言云出以至百多我喚我子矣
- M2-19 且希羅得死了後主之神使夢中現與若色弗曰
- M28-4 因怕之看守者惶而似死了
- Ma12-20 夫有七個兄弟第一個娶妻而無子死了
- Ma12-22 其第七個皆娶之而無遺子也後婦亦死了
- Ma15-44 故彼拉多奇其如是早死而喚百夫長者問之耶穌死了幾久否
- J6-58 斯乃從天下來之餅非如爾祖吃嗎拿 # 而已死了食此餅者則永生矣
- J8-53 爾大於吾祖亞巴拉罕已死者乎先知亦死了爾想自為誰
- J11-14 時耶穌明語伊等曰拉撒路死了
- J19-33 到耶穌之時見其業已死了且不打折厥小腿
- L5-37 又無人裝新酒在舊皮罐恐新酒裂罐即酒漏而罐壞了
- L6-8 惟耶穌識伊念對人有廢了的手日起身而立於中其即起立
- J5-18 …如大輩更尋殺之因其不止犯了撒百 # 日乃亦言以神為厥父致以自己與神平一等
- J18-30 伊等答謂之曰他若非犯了罪則不解到汝
- J19-30 耶穌接醋後曰已畢了即俯首而給靈魂去也
- J4-46 …耶穌再來加利利之加拿前變水為酒之所彼有或王爺厥子在加百耳拿翁害了病
- J5-5 彼有或人已害病了三有八年
- M12-10 而卻遇一人有厥手衰了故伊等欲告耶穌問之曰是否為合法於撒百 # 日而醫人也
- M21-19 ……向之曰從此以來爾永不致結果 # 故無花果 # 樹就稿了
- M22-29 耶穌答謂伊等曰爾錯了不知經書與神之能
- M25-8 且愚蠢者向有智者云以爾之油給我們蓋我燈滅了
- Ma5-26 又因醫生已受多苦並已費了本業惟不見愈乃病更深
- Ma7-8 蓋爾等棄了神之誠而守人之遺傳如洗杯盥之類而如是之多情
- MaL4-35 耶穌責之曰止言而由彼出來鬼倒了其人會中即出未曾害之

ちなみにモリソンの華英字典 *A Dictionary of the Chinese Language* (『五車韻府』) の1865年版の解説には以下のようにあり、口頭語には頻出するということであるが、『神天聖書』

でつかわれているのはやはり書面語であり、それほどの用例数はなかった。

Intelligent; knowing; fixed; detemind; finished; Leaou, is a very frequent particle in the spoken language, serving to round the period, and form the perfect tense.

華英字典の1822年版、1865年版ともに見出しの用例は、“我見了”、“他來了”、“知道了”、“罷了”、“一語未了”で、マイナスイメージの語の用例は1つもなかった。

その他の用例には“完了 (Ma14-41)”, “投了 (Ma12-43)”, “買了 (L14-18, L14-19)”, “娶了 (L14-20)”, “開了 (M2-11)”, “來了 (J11-28)”, “明白了 (Ma8-25)”, “做了 (MaL5-6)”, “紅了 (M16-2)”があった。

4 白話と史文の語彙, その他

(1) 人称代名詞“你們”など

『三国志演義』では、とくに台詞の部分で、人称代名詞を巧みに使い分けて登場人物の性格などを表現したが、『神天聖書』の人称代名詞では特にそのような狙いで意図的に使用することはなかった。複数語尾をもつ“我們”、“你們”、“他們”について見てみたが、“我們”、“他們”にとくに使い分けは見られず、とくに“你們”は、底本である『四史攸編』に翻訳がなく『神天聖書』で初めて中国語に訳出された「ヤコブの手紙」(3例)、「ペテロの手紙第1」(22例)、「(同)第2」(17例)の3書だけに用例が偏っており、使い分けも見られない。しかも『四史攸編』では全編にわたって“你們”は使われていなかった。場面のモードによる使い分けというよりも、各書の翻訳を担当したスタッフの語感に偏りがあったことが原因であったのではないかと思われる。

(2) 目と眼

基本的には以下の用例のように同じように用いられている。

M26-43 且其來而遇伊等再睡因伊之目倦也

Ma14-40 其既回來再遇伊等睡蓋眼倦矣又伊等不知何可答

ただ、目の個数を表す「片目、両目」の表現には“眼”しか用いておらず、目玉そのものを表すのには“眼”を使っていたことが分かる。

M18-9 若爾眼誘惑爾即拔出擲去之寧可有單眼而入常生不致有兩眼投入永火矣

Ma9-47 又若爾眼誘惑爾拔之出爾寧可單眼而進神之國不敢有兩眼而被投入地獄之火也

(3) 主人

4福音書全体では1つ目の例のようにふつう“家主”が使われるが、白話作品で「主人」

を言う“東家”が1例だけ見られる。

M13-35 故爾醒守蓋不知家主幾時回來或晚上或半夜或雞鳴時或等早晨

L12-39 爾自知若東家知何時賊到其就醒守不許打進其屋

(4) 吏文の“業已”

副詞「すでに、もう」の意では、殆どの用例が“已”であるが、公文書にひろく用いられた“業已”も3例みられた。人称代名詞の“伊”、“伊等”と同じく、吏文から参照されたと思われる。なお、“已經”の用例は無い。

M6-2 …我確語汝知伊等業已受伊之賞矣

J17-25 義父者乎世業已不識爾但余識爾又此些知爾乃遣我

J19-33 到耶穌之時見其業已死了且不打折厥小腿

ちなみに吏文（賀長齡《皇朝經世文編》）には次のような“業已”の用例が多数ある。

得聞喪日期業已過三月五月 / 卷 63 禮政十喪禮下 / 招魂葬服說許三禮

勢必清查歸併民糧業已詳之本府軍廳 / 卷 31 戶政六賦役三 / 屯糧序盧傳

三年期限業已過半 / 卷 27 戶政二理財下 / 與馬虞樽少司空書彭維新

其陝甘兩省業已派滿漢兵一萬五千餘名 / 卷 26 戶政一理財上 / 論增兵籌餉疏阿桂

孔門弟子業已富者自富貧者自貧 / 卷 11 治體五治法上 / 書王荊公文集後 袁枚

(5) 異文化の翻訳「パン」

“麵”の用例は「ルカの福音書」の22章と24章に各々2例ずつあり、21章以前には“麵頭”と“麵”があった。ほかの3書での用例はすべて“餅”であり、そもそも小麦を表す“麵”の字が見られず、「ルカの福音書」の用例の特異さが際立っていることを示すものといえる。

L9-13 謂之曰爾自付伊等以食曰吾止有五箇麵頭兩尾魚不然必去買糧為此眾民

L11-5 耶穌又謂伊等曰爾中之一或有朋友而於夜中往到之曰友借我麵頭三箇

L22-1 夫無酵麵包之禮宴名曰巴所瓦將近

L22-19 其隨取麵包又感謝而擘之給與伊等曰此乃我為爾給之身行此以記憶

L24-30 會在席時其取麵包言之福擘之而分與伊等

L24-35 伊等亦報在路遇何事並擘麵包時如何認之

なお、本節「4」については、本稿ではごく小さい事柄を集めたに過ぎず、稿を改めてまとめることとしたい。

5 小結

『聖經直解』、『四史攸編』は文言のスタイルで、地の文、白の文ともに基本的に白話の語彙自体使われなかったが、『神天聖書』では、全体的には文言ではあるが、数百の白話の要素が混じるようになった。但し、白話語彙の用例をみても、『三国志演義』のように、話者によって特徴付け、会話のモードの区別をつけるために活用された訳ではない。そして、用例の大半は“的”、“個”、“了”の3語で占められたが、“的”は専らヒトとお金とパンを数えるのに用いられ、“的”は“別的”や“有的”となって原典英語の“another”, “some”, “the other”の意味を表し、“了”はマイナスイメージの語の完了を表すために使われた。しかし、後続のモリソン改訳、さらにその後続のブリッジマン=カルバートソン訳では、その白話的な成分は悉く抹消されて、より文言的な表現に改められ、曲りなりにも存在した「雅俗共賞」的特徴は姿を消した。

注

- 1) 古屋 1996, p124–125 参照。
- 2) 香坂 1983, p392–397 参照。
- 3) “個”と“箇”は、枠内の左の数字が“個”で右が“箇”である。“底”は用例が無く、すべて“的”の用例数である。“兒”と“子”については接尾辞としての用例である。

参考文献

- 香坂順一 1983 『白話語彙の研究』 光生館
 古屋昭弘 1996 「17世紀ドミニコ会士ヴァロと『官話文典』『中国文学研究』早稲田大学中国文学会
A Dictionary of the Chinese Language (『五車韻府』) 1822, 1865

聖書原典資料

- 『聖經直解』(『天主教東傳文献』台湾学生書局 1972)
 『四史攸編』(大英図書館蔵)
 『神天聖書』(1) ゆまに書房 1999 「幕末邦訳聖書集成」(2) (大英図書館蔵)
 『聖經』(フランス国立図書館蔵)
 『救世主耶穌新遺詔書』(大英図書館蔵) モリソン改訳
 『新約全書』上海美華書館 1864 (愛知大学図書館蔵) ブリッジマン・カルバートソン (BC) 訳